

## 建築計画・小テスト2「人間と環境」

番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

- ① 一般に人間の感覚は、視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚と呼ばれる5つの \_\_\_\_\_ に分類される。
- ② 人間が生存するためには、周囲の環境はある範囲に収まっていなければならない、それを人間の \_\_\_\_\_ という。
- ③ 人間は \_\_\_\_\_ 体温が42℃になると長時間耐えることができない。
- ④ 感覚とは生活体の内部または外部からの刺激によって、即時、直接に引き起こされる意識内容をいい、その中で内容が行動的な意味や象徴を備えているものを \_\_\_\_\_ という。
- ⑤ \_\_\_\_\_ は知覚に比較して広い範囲の状況を把握する心理的な反応であり、その内容は個人の経験が影響する。
- ⑥ とらえる得る最小の刺激の大きさを \_\_\_\_\_ (absolute threshold) という。
- ⑦ ウェーバー・フェヒナーの法則：刺激の大きさの \_\_\_\_\_ は反応の大きさに比例する。
- ⑧ スティープスの法則：感覚の大きさの増加の割合は刺激の大きさの増加の \_\_\_\_\_ に比例する。
- ⑨ 人間は移動している自動車の刻々と変化する情景を身ながらも、一つのものとして見ていることを \_\_\_\_\_ という。
- ⑩ 視知覚では平面の図形を見た時、まとまりのある形状を他と区別して図 (figure)、それを囲む領域を \_\_\_\_\_ という。
- ⑪ 触覚は、\_\_\_\_\_ 感覚のことであり、触覚・圧覚・温覚・冷覚・痛覚などの感覚もふくむ。
- ⑫ 人間は注意 (attention) によって、環境の中の膨大な知覚情報のうち、一部の情報だけを選択しており、これを \_\_\_\_\_ 効果という。
- ⑬ 環境が動物に提供 (offer) するもの、用意したり備えたりする (provide or furnish) ものを \_\_\_\_\_ という。
- ⑭ 人間がとらえる環境には、\_\_\_\_\_、音環境、温熱環境、空気環境、蝕環境の5つがある。
- ⑮ 温熱環境要素には、代謝量、着衣量、気温、湿度、\_\_\_\_\_、熱放射の6つがあげられる。
- ⑯ 空気汚染源として、固体では \_\_\_\_\_、気体では二酸化炭素、一酸化炭素が主な調査対象となる。
- ⑰ 建築材料の触感を表すための基本感覚量として、冷温感、硬軟感、\_\_\_\_\_ 感が採りあげられる。
- ⑱ 寒さに対応する必要がある土地では、\_\_\_\_\_ は犠牲にしても、断熱性に優れた厚い壁による工法が生み出された。
- ⑲ 高温多湿な気候下では、\_\_\_\_\_ が確保できる工法が生まれた。
- ⑳ 気候や地勢および文化の影響を受けて出来上がった、その土地の個性を \_\_\_\_\_ という。